

Ⅱ 特別シリーズⅡ

科学技術
振興機構 『さくらサイエンスプラン』 友情と感激

第10回

久留米高専の活動報告



黒木祥光(久留米高専制御情報工学科准教授)

タイの学生との学生交流・ものづくりの基礎と科学の啓発活動

九州沖縄地区にある9つの国立高等専門学校は、平成24年度より大学間連携共同教育推進事業「高専・企業・アジア連携による実践的・創造的技術者の養成」(略称「9高専連携事業」)を実施しています。久留米高専では、黒木が平成24年度に国立高等専門学校機構在外研究員の区分B・協定校派遣として送り出し機関であるモンクット王工科大学ラカバン(以下、KMITL)に滞在したことをきっかけに、タイの大学との交流を始めました。黒木がこの在外研究に応募した動機は、工学を教える者として、日本企業の工場進出が著しいタイの現状を肌で感じ、それを学生に伝えたいというのが最大の要因でした。KMITLの学生と研究内容について議論を重ねるうちに、研究に取り組む熱心さに心を打たれ、学生交流によって互いの技術



特別聴講生の説明に聞き入る参加学生

力向上を行いたいと思うようになりました。以上の背景の下、久留米高専は平成25年5月にKMITLのKunpong Woratpanya助教を約3週間招へいしました。また、同年の夏休み期間に9高専の学生5名が約2週間の日程でタイの3大学を訪問しました。平成26年度に入って本プログラムを計画した時は、6月上旬から7月にかけてKMITLの3年生7名を特別聴講生として受け入れる準備をしていました。本プログラムに応募したのは、今後の学生交流をより発展させるために、日本の科学技術について、また、久留米高専について、KMITLの学生に知ってもらうことが重要と考えたためです。

〔高専の幅広い学生と交流〕
7月6日の朝、学生10名が福岡空港に到着しました。招へいた学生は情報学部部に所属する学部生5名と修士課程の学生5名で、高専の低学年から専攻科生まで幅広い学生と交流を行うように工夫しました。本プログラムと同時期に9高専連携事業の国際交流推進コンディネーターとしてKunpong助教を2週間の日程で再度招へいし、様々な面で手助けをお願いしました。

交流内容は将来の再来日を促すため、学内施設や実験・実習見学、特別聴講生として滞在中の3年生による高専の状況説明、久留米

プログラム	
1日目	到着、オリエンテーション
2日目	午前：特別聴講生の訪問(1)
	午後：学内見学
3日目	午前：特別聴講生の訪問(2)、招へい学生による学内プロジェクトの紹介
	午後：電気機器実験の見学、制御情報工学科5年生との交流
4日目	午前：福岡青少年科学館の見学
	午後：技術英語の聴講、プログラミングラボ部との交流
5日目	トヨタ自動車九州宮田工場および安川電機ロボット工場(ただし、台風のため中止。制御情報工学科5年生による九州国立博物館の案内)
6日目	午前：技術英語の聴講、専攻科2年生との交流
	午後：機械加工実習の見学、校長先生との面談
【7日目】	帰国

